

新年のご挨拶

一般社団法人日本病院薬剤師会会長
北田 光一 Mitsukazu KITADA



新年明けましておめでとうございます。皆様におかれましては、新たな気持ちで、お健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

平成26年の年頭にあたり、日頃から日本病院薬剤師会の活動にご理解とご協力をいただいております皆様へ御礼を申し上げますとともに、新年のご挨拶を申し上げます。

社会のニーズに応じた医療の質の向上を図りつつ、効果的で効率的な医療を提供するために、病院・病床の機能分化と強化や在宅医療の充実とその連携を推進するための仕組みの構築が喫緊の課題となっています。私たち薬剤師は、的確な薬学的管理を実践し医薬品の適正使用に基づいて個々の患者に対して安全で最適な薬物治療を提供するとともに医療の安全を確保することを基本的な使命としておりますが、医療環境が激変するなかであって、具体的な業務内容や役割とその求められるレベルは変化していくと思われま

す。さて、平成26年も引き続いて、キーワードとして「病棟業務の充実」、「チーム医療の推進」、「医療安全」、「客観的エビデンスの蓄積」、「資質の向上」を挙げたいと思います。平成25年は「薬剤管理指導料」に関連する業務の充実、あるいは「病棟薬剤業務実施加算」関連業務との両輪で病棟活動の充実に取り組んだ年であったのではないかと思います。平成24年度診療報酬改定における「病棟薬剤業務実施加算」の新設は病院薬剤師に極めて大きなインパクトがありました。この与えられたチャンスをつかめば可能性はさらに広がると思っております。病棟にとどまらず中央診療部門、外来を含めた「薬あるところ」での質の高い薬剤業務を展開し、患者およびほかの医療スタッフから評価される客観的な臨床上のアウトカムを積み重ねることが次の展開において大事なことであると思っております。

また、チーム医療のなかでより専門性の高い薬剤師の果たすべき役割もますます増大すると考えられます。薬剤師は責任をもって行動できる特定の専門領域をもち、その専門領域の薬物療法に関して主体的な役割を果たすことができるレベルにあることが必要となります。本年も引き続き、さらなる展開と社会の期待に応えるために、薬剤師としての専門性を鍛える努力をお願い致します。

厳しい環境にはありますが、困難な道を避けた時にすべては終わってしまいます。今こそ、飛躍のチャンスと捉え、患者の顔がみえる薬剤師としての展開が大切であります。各施設において薬に関することについては責任をもってかわり、明確な医療への貢献を介して信頼される存在となることを切に願っております。

本年が皆様にとって明るい希望のある未来への1年になることを心から祈念して、新年の挨拶と致します。